

# 環境活動レポート

株式会社 サンアール

# 1. 会社概

- ア). 会社名 株式会社 サンアール
- イ). 所在地 北海道函館市滝沢町 98 番地
- ウ). 代表者 代表取締役 時田 茂
- エ). 事業内容 産業廃棄物の中間処理
- カ). 事業の範囲

破砕(木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、紙くず)  
 選別(木くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、紙くず、繊維くず、  
 金属くず、廃プラスチック類、ゴムくず、がれき類)  
 RDF の製造(木くず、廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、ゴムくず)  
 圧縮(廃プラスチック類)  
 減容(廃プラスチック類)

## キ). 環境保全関係の担当者連絡先

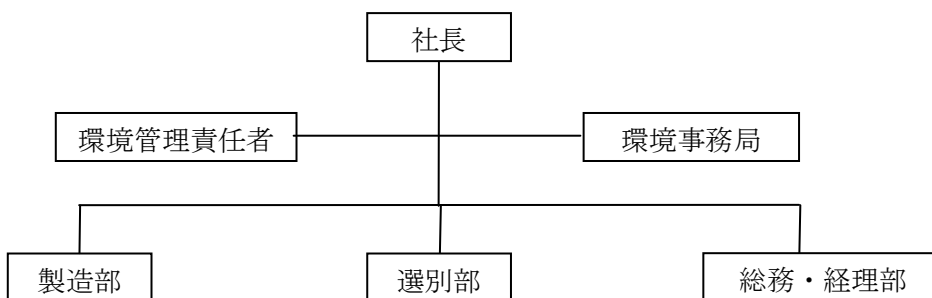
担当者 副工場長 時田 真一  
 Tel 0138-33-1505  
 Fax 0138-33-1507  
 ホームページ [http://www16.ocn.ne.jp/~rrr\\_3r/](http://www16.ocn.ne.jp/~rrr_3r/)  
 E-mail rrr\_3r@vanilla.ocn.ne.jp

## ク). 事業の規模

活動規模	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
処 理 量	t	14641 t	17967	15237
売 上 高	百万円	261百万円	338百万円	330百万円
従 業 員	人	35 人	35 人	35 人
床 面 積	m <sup>2</sup>	13,300 m <sup>2</sup>	13,300 m <sup>2</sup>	13,300 m <sup>2</sup>

## ケ). 実施体制

組織図



# 環 境 方 針

株式会社サンアールは、産業廃棄物を中間処理するにあたって、次に示す誓約をすることによって、環境負荷の低減、そして循環社会の構築に向けて、環境への取組を実施します。

1. 地球環境保護への取組を、当社経営課題のうちの一つとして位置づけます。
2. 中間処理業務における最終処分廃棄物を減らし、リサイクル率の向上を目指します。
3. 当社業務における廃棄物を抑制します。
4. 当社事業活動に伴う法規制の遵守を徹底します。
5. 当社事業活動に伴う環境負荷の低減を目指します。
  - (ア) 電気使用量の削減
  - (イ) 水使用量の削減
  - (ウ) 燃料使用量の削減
  - (エ) 紙使用量の削減
  - (オ) グリーン購入の推進
6. 上記環境方針に沿った活動を行う為、月例会議等で全従業員に周知徹底し、全従業員で取り組んでいきます。

平成 18年4月1日

株式会社 サンアール

代表取締役 時田 茂 印

## 2. 投入エネルギー量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
購入電力	MJ	1760975	7453902	10359129
化石燃料	MJ	2623715	2608588	3302969
新エネルギー	MJ	0	0	0
その他	MJ	0	0	0

## 4. 水資源投入量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
上水	m <sup>3</sup>	439	929	1135
工業用水	m <sup>3</sup>	0	0	0
地下水	m <sup>3</sup>	0	0	0

## 5. 温室効果ガス排出量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	247334	465456	623597

## 6. 受託した廃棄物の処理量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
収集運搬量	t	0	0	0
中間処理量	t	14195	17563	15326
うち再資源化等量	t	4701	2764	2955
最終処分量	t	0	0	0
中間処理後の産廃の処分量	t	9485	14711	11996
うち再資源化等量	t	3046	9096	7311

## 7. 廃棄物等総排出量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
再使用	t	0	0	0
再生利用	t	1705	2514	2024
熱回収	t	6147	9347	8347
単純焼却	t	16	7	7
その他	t	0	0	0

## 8. 廃棄物最終処分量

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
最終処分量	t	6439	5615	4665

## 9. リサイクル率

	単位	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
サーマルリサイクル	%	44.7	53.1	49.8
マテリアルリサイクル	%	7.7	15.3	22.4
最終処分	%	48	32	28

現状は約 7 割がリサイクルされています。

サーマルリサイクルの中には、木チップ、RPF などが含まれます。

マテリアルリサイクルの中には、金属、発泡スチロール、ダンボール、がれき類などが含まれます。

## 10. 環境への取組の自己チェックリスト (平成19年4月現在)

## 1. 事業活動動へのインプットに関する項目

## 点数／満点

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| 1) 省エネルギー、新エネルギー使用の拡大 | 12 / 24 |
| 2) 省資源、グリーン購入         | 5 / 18  |
| 3) 節水、水の効率的利用         | 4 / 6   |

## 2. 事業活動からのアウトプットに関する項目

## 点数／満点

- |                                     |         |
|-------------------------------------|---------|
| 1) 二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止              | 27 / 28 |
| 2) 化学物質対策                           | 20 / 20 |
| 3) 受託した産業廃棄物の処理における環境配慮             | 51 / 72 |
| 4) 事務所等における一般廃棄物の排出抑制<br>リサイクル、適正処理 | 28 / 46 |
| 5) 排水処理                             | 4 / 6   |
| 6) 収集・運搬に伴う環境負荷の低減                  | 8 / 14  |

## 3. 環境経営システムに関わる項目

## 点数／満点

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| 1) 環境保全のための仕組み・体制の整備 | 17 / 32 |
| 2) 環境教育、環境保全活動の推奨等   | 2 / 10  |
| 3) 情報提供、社会貢献、地域の環境保全 | 4 / 8   |
| 4) 環境ビジネス、技術開発       | 6 / 6   |
| 5) 国際協力及び海外事業における配慮  | 0 / 0   |

総合結果

188 / 290

## 11. 主要な環境活動計画の内容

### (1) 選別工程で使用する燃料の削減

- ・選別工程の見直しをする。
- ・重機の使い方の見直しをする。
- ・重機車両等の無駄なアイドリングを禁止する。
- ・急発進、急加速、空ふかしを禁止する。
- ・使用量を3ヶ月に1度確認し、見直しする。

### (2) 中間処理工程で排出する最終処分量の削減

- ・中間処理工程の選別精度は保たれているか。
- ・中間処理工程の見直しする。
- ・排出量を3ヶ月に1度、確認する。

### (3) 工場内で使用する電気使用量の削減

- ・お昼や休憩時間の消灯、設備の電源を消す。
- ・30分以上作業がない場合は設備の電源を消す。
- ・破碎工程の作業集約化で短時間化を図る。
- ・選別ライン工程の作業の効率化をする
- ・破碎機等の機械類の空運転を防止する。
- ・無駄のない作業スケジュールの作成をする。
- ・デマンドコンローラの導入による、工場全体の電気使用量の把握をする。

### (4) 製造工程で使用する燃料の削減

- ・お昼や休憩時間など、無駄のないように稼働させる。
- ・作業効率が落ちないように工夫する。

### (5) 事務所で使用する用紙の使用量の削減

- ・裏紙などを再利用する。
- ・ミスコピー、ミスプリントなどをなくす。

### (6) 工場内の上水の使用量の削減

- ・重機等の洗車は必要最低減にする。
- ・走行型粉塵集塵機の導入により、散水作業を削減する。
- ・粉塵防止の散水作業は効率よく行う。

## 13. 環境目標と実績

	単位	平成 18年度(基準年)	平成 19年度(目標)	平成 19年度(実績)	評価
① 選別工程で使用する 燃料の削減	L	66,302	64,976 (2%減)	63,517 (4%減)	○
② 中間処理工程で排出する 最終処分量の削減	T	5,615	5,335 (5%減)	4,628 (17%減)	○
③ 工場内で使用する 電気使用量の削減	Kwh	748,281	710,867 (5%減)	1,053,828 (40%増)	×
④ 製造工程で使用する 燃料の削減	L	5,056	4,804 (5%減)	27,832 (550%増)	×
⑤ 事務所で使用される 用紙の削減	枚	27,500	26,950 (5%減)	68,000 (247%増)	×
⑥ 全部門で使用される 上水の削減	L	929	883 (5%減)	1,135 (122%増)	×

## 14. 考察

- ① 選別工程で使用する燃料の削減
  - ・活動計画の実施の結果、削減に成功できたように見えるが、混合廃棄物の搬入量の減少も影響していると思われる。
- ② 中間処理工程で排出する最終処分量の削減
  - ・活動計画の実施の結果、削減に成功できたように見えるが、混合廃棄物の搬入量の減少も影響していると思われる。
- ③ 工場内で使用する電気使用量の削減
  - ・活動計画を実施はしているのだが、廃プラスチックが10月から急増した為、RDF 工場稼働時間の増加による、電気使用量の増加です。
  - ・10月からの RDF 工場の稼働を基準に考え、平成20年度は基準年と、目標値を見直す必要がある。
- ④ 製造工程で使用する燃料の削減
  - ・平成18年4月から、発泡スチロール減溶工場が本格稼働した為、燃料の使用量が急増した。平成20年度は基準年と、目標値を見直す必要がある。

⑤ 事務所で使用する用紙の削減

・使用量での把握が難しい為、購入した月で集計しているのだが、3月に誤発注してしまい、購入枚数が急増してしまった。

⑥ 全部門で使用する水量の削減

・平成18年4月から、発泡スチロール減溶工場が本格稼働、平成18年10月からの廃プラスチックの増加によるRDF工場の稼働時間の増加などの影響により、水量が増加している。平成20年度は基準年と、目標値を見直す必要がある。

## 15. 環境関連法規への違反、起訴等の有無

当処分場に適用される環境関連法規等への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間1件もありません。

## 16. 優良性評価制度の情報公開について

以下、北海道産業廃棄物協会のHP上にて公開しております

<http://www.sanpai.or.jp/search/displ.php?co=C000002&b=0>